

アピア[サモア]

# 南太平洋の楽園で 家族の絆に乾杯

自然がストレスを癒やすリラックスライフ

絶景にため息  
サンゴ礁が広がり、ダイビングなどのマリンスポーツも楽しめる

APIA

アピア



人口 **4万4000人**  
(日本人46人)

気候 年中高温多湿で雨季(11~4月)はとくに高温多湿

最新トピック 人気のナイトスポットは、中心部ビーチロード沿いのクラブ「アイスハイ」。おなががすいたら、同じビルの1階にある「パドルズレストラン」でサモア風イタリア料理を試してみよう



# 遠

来の客にサモアの首都  
アピアの街を案内する  
ため、フィオノ洋子  
(35) はタクシーを拾った。

しばらく行くと、運転手の携帯  
電話が鳴った。どうやら妻から何  
か頼まれているらしい。運転手は  
急に車を止め、「降りてくれ」と  
言った。そして「フアラペラペ」  
と叫んで走り去った。

「フアラペラペ」とは、家族の  
出来事を意味する現地の言葉。ア  
ピアの国際協力機構（JICA）  
で働く洋子は、遠親した表情で次  
のタクシーを拾う。「よくあるこ  
と。サモアでは、仕事よりも家族  
が優先される。フアラペラペだ  
からと言えば、みんな納得する」

これがサモア流の生き方だ。ゆ  
つたりリズムを刻むその生活に、  
日本人はときにいらだちを感じる  
かもしれない。午後2時を過ぎる  
と、バスに乗るのもひと苦労。今  
日は十分働いたと思うと、運転手  
は仕事を切り上げてしまふ。

「日本のやり方はまったく通用し  
ない」と言うのは、アピアに住ん  
で6年になる矢崎EDSサモアの  
大場勉副社長（60）だ。

なにしろ「明日できることは明  
日に延ばす」のがサモア流。だか  
ら矢崎では毎朝、現地の従業員を  
集めて「今日やるべきことは今日  
やろう！」というスローガンを唱  
えさせている。

もつとも、スローな生活リズム

を本気で変えたい人はいない。ア  
ピアは治安のいい魅力的な町だ。  
警官は拳銃を携帯せず、軽い罪な  
ら囚人も週末は帰宅できる。伝統  
的な家屋には壁がなく、夜は涼し  
い海風が吹き込む。気温は年間を  
通じて22〜31度と、実に過ごしや  
すい。そして自然は、ミュージカ  
ル「南太平洋」のセットから抜け

人口4万4000人の町はやや  
寂れているが、コロンアル様式の  
優雅な建物が立ち並び、大きな市  
場が三つある。パロロ・デイーブ  
海洋保護区をはじめ、ダイビング  
スポットも多い。

町に飽きたら、ボートでマノノ  
島へ。島内は車の乗り入れが禁止  
されているので、移動手段は徒歩  
仲間、パロロは珍味として珍重さ  
れる。ココナツクリームとタロイ  
モの葉をバナナの葉に包んで蒸し  
た「バルサミ」も名物だ。

日本式の刺身は、地元の人々  
にも親しまれている。ネタはもつ  
ばらマグロで、魚の種類は少な  
いが、その代わり新鮮なロブスター  
やカニがふんだんにある。



家族が一番 2人の甥と息子の  
妻の母親とつるぐ小林(上)、洋  
子と8歳になる娘の珠里(下)、矢  
崎EDSに勤務する大場



出てきたように美しい。  
「アピアは本当に暮らしやすい」  
と、ホテル・キタノ・サモアの田  
中穂積総支配人（59）は語る。

## 新鮮な海の幸を堪能する

「マリリアはないし、危険な動物  
もいない。空気はおいしい。沖繩  
にもオーストラリアのゴールドコ  
ーストにも住んだが、夕焼けと星  
空はここが一番だ」

のみに。海に沈んだ死火山の噴火口  
であるアポリマ島もいい。

食生活は豊かだ。実が主食とな  
るパンノキが道路を縁取り、ヤシ  
の木が庭を彩る。コーラのボトル  
に詰めて売られるナマコは800  
円程度と安い。海に住むゴカイの

そんな南洋の楽園に、なぜか日  
本人の居住者は少ない。「遠いし、  
航空券が高いから」と、フィオノ  
洋子は言う。洋子には8歳の娘が  
いるが、日本に里帰りしたのは4  
度だけ。不動産も安くはなく、郊  
外に小さな家を借りれば月に10万  
円前後かかる。サモア語の習得も  
簡単ではない。

親族内では持てる者が持たざる  
者を助けるのがサモア流。フィオ  
ノ夫妻も、借金をして夫の親族を  
援助した。「最初は文句を言った  
けれど、最近はまだいいかと思え  
てきた」と洋子は言う。

## 夕方からは自分の時間

親族内では持てる者が持たざる  
者を助けるのがサモア流。フィオ  
ノ夫妻も、借金をして夫の親族を  
援助した。「最初は文句を言った  
けれど、最近はまだいいかと思え  
てきた」と洋子は言う。

「すぐここが大好きになった」  
と、洋子も振り返る。「海に向こ  
うまで、夕焼けが本当に雄大で。  
虹が先から先まで見られることも、  
印象的だった」

洋子もときには午後7時すぎま  
で働くが、たいい仕事は4時半  
に終わる。緑の丘に夕日が沈むま  
で、パイアの木立で娘と遊ぶ時  
間はたっぷりある。

デボラ・ホジソン